

2016年11月6日(日) 会場：谷中の家(東京都台東区谷中3-17-11)

スウェーデンの  
ドキュメンタリー映画「脅威」上映+トーク

北欧サーミとチェルノブイリ事故をめぐるって

スカンジナビア半島の北部でトナカイの遊牧生活を営むサーミの人々のチェルノブイリ後を描いた映像詩。サーミの人々は、豊かな大自然のなかに、生活のすべてをつくりあげてきた。ところが、チェルノブイリの死の灰が彼らの地を突然襲った「あの日」以来、彼らの生活は根本からくつがえされてしまった。彼らの暮らしぶり、サーミ人の夫婦ユンさんとリリムールさんの淡々とした語り口のなかから、サーミの人たちの心が伝わってくる。ベルリン映画祭特別賞受賞。(ステファン・ヤール監督/1987年/スウェーデン/72分/日本語版制作1988年(反核パンフィックセンター東京))



●チェルノブイリ事故による放射能汚染で打撃を受けた1986年当時のようすを伝える貴重なドキュメンタリーです。トナカイが大量に殺処分されるなどサーミの人々が直面した現実、福島を酪農家はじめ農山漁業者の状況に重なってみえます。ではサーミの人々のその後はどうなのか？ 気になるところです。

●当日は、映画の日本語版制作に携わった荒川俊児さん(映像ドキュメント.com)と、スウェーデン在住の松田青子さんをゲストに迎えてお話をうかがいます。スウェーデンは、原発を推進しつつ自然エネルギーにも力を入れている国。そんなお国事情と併せて、チェルノブイリから30年に学び、福島を、日本を振り返る1日になるようにと思います。ひご参加ください。お待ちしております。

【1回目上映】14:00～15:20(開場13:30)

【2回目上映】16:00～17:20(開場15:30)

トーク 17:20～18:15 ☆1回目をご覧の方もトークにご参加いただけます

【交流カフェ】18:30～19:30

\*各回上映後にヤール監督のショート・インタビュー(2016年4月、スウェーデンのTV放送より)を上映します。

■参加費/定員(予約方法は裏面をご覧ください)

【1回目・2回目上映(トーク込)】各1000円(パンフレット付)/定員30名

【交流カフェ】500円(軽食+1ドリンク付)/定員20名

要予約



